

AWARDS

OIOS '99 GRAND CHAMPION

Brassolaeliocattleya Triumphant Coronation 'maruga'



OKINAWA INTERNATIONAL ORCHID SHOW 2000

沖縄国際洋蘭博覧会

VOL.14 2000

GUIDELINES FOR APPLICATIONS

実施要綱

沖縄国際洋蘭博覧会実行委員会組織（委員名簿）

役 職	氏 名	所 属	役 職	氏 名	所 属
実行委員長	中山 晋	(財)海洋博覧会記念公園管理財団 理事長	委 員	大 場 勝	日本洋蘭農業協同組合 組合長
副委員長	石川 秀雄	沖縄県副知事（土木建築部担当副知事）	〃	徳 本 行雄	沖縄県蘭協会 会長
副委員長	加納研之助	沖縄開発庁沖縄総合事務局次長	〃	儀 間 義勝	沖縄県経済農業協同組合連合会 代表理事
委 員	唐澤耕司	理学博士	〃	上 間 良廣	沖縄県花卉園芸農業協同組合 代表理事
〃	池田 龍彦	沖縄開発庁沖縄総合事務局開発建設部長	〃	前 原 朝信	(社)沖縄県造園建設業協会 会長
〃	宮本 敏久	沖縄開発庁沖縄総合事務局農林水産部長	〃	普天間宗櫻	沖縄県華道連盟 会長
〃	小那期安優	沖縄県農林水産部長	〃	翁 長 悦子	(社)日本フラワーデザイナー協会 沖縄県支部長
〃	大城 栄禄	沖縄県商工労働部 観光リゾート局長	〃	比 嘉 稔	(社)日本生花通信配達協会 沖縄地区幹事
〃	銘 苺 清一	沖縄県土木建築部長	〃	赤 嶺 繁	(財)海洋博覧会記念公園管理財団 常務理事
〃	翁 長 良盛	沖縄県教育委員会 教育長	事務局 長	宮田 倫夫	(財)海洋博覧会記念公園管理財団 事務局長
〃	饒波 正之	(財)沖縄観光コンベンションビューロー専務理事	事務局	新里 隆一	(財)海洋博覧会記念公園管理財団 植物課長

■実施団体■

1.主催

沖縄国際洋蘭博覧会実行委員会

2.共催

沖縄県、沖縄県教育委員会、(財)海洋博覧会記念公園管理財団、
沖縄県蘭協会、(財)沖縄観光コンベンションビューロー、沖縄
県経済農業協同組合連合会、沖縄県花卉園芸農業協同組合、
(社)沖縄県造園建設業協会、(社)日本フラワーデザイナー協会、
(社)日本生花通信配達協会、沖縄県華道連盟

3.後援

〈行政〉外務省、農林水産省、建設省、沖縄開発庁、文化庁

〈団体〉日本蘭協会、全日本蘭協会、日本洋蘭農業協同組合、
蘭友会、(社)日本造園建設業協会、(社)日本造園コンサルタンツ
協会、(財)日本花普及センター、(社)日本家庭園芸普及協会、(社)
日本植物園協会、沖縄県市長会、沖縄県町村会、沖縄県商工
会議所連合会、沖縄県商工会連合会、(社)沖縄県経営者協会、
沖縄県緑化種苗協同組合、沖縄県旅行業協会、(社)沖縄県バス
協会、(社)全国旅行業協会沖縄県支部、沖縄県ホテル旅館環境
衛生同業組合、(社)沖縄県タクシー協会、沖縄県個人タクシー
事業共同組合、那覇個人タクシー事業共同組合

〈マスコミ〉NHK沖縄放送局、琉球放送(株)、沖縄テレビ放
送(株)、琉球朝日放送(株)、(株)ラジオ沖縄、(株)エフエム沖縄、(株)
沖縄タイムス社、(株)琉球新報社、(株)沖縄観光速報社、観光お
きなわ新聞社

4.特別協賛

全日本空輸(株)

■実施要領■

●一般公開／平成12年2月5日(土)～2月13日(日)までの9日間

●会 場／国営沖縄記念公園(海洋博覧会地区)熱帯ドリーム
センター

●審 査 会／平成12年2月4日(金)AM10:00～PM5:00

●審査規定／

①認定審査部門／一般に認定されていない新花を対象とし、

あらかじめ定められた評価基準により審査委員の持ち点の平均点で
次の各賞が認定されます。

- ◎FCC賞 90点以上
- ◎A M賞 80点～89点以上
- ◎HCC賞 75点～79点以上

②コンクール審査部門／投票で選出された次の賞が認定されます。

- ※最優秀賞：出展された全ての洋蘭を対象とし、最も優れた作品
を選考する。選考は審査委員の投票によって決定する。
- ※優 秀 賞：鉢物審査、切花審査、ディスプレイ審査、フラワー
デザイン審査、外国出展審査のそれぞれを目的として出展され
た洋蘭又は作品を対象とし、各部門で最も優れた作品を選考する。
各賞は、審査委員の投票によって決定する。
- ※優 良 賞：優秀賞の選考基準に準ずる。
- ※奨 励 賞：優秀賞の選考基準に準ずる。

●表彰規定／

①認定審査部門

- ◎FCC賞 若干名……最高額200万円
- ◎A M賞 若干名……最高額 70万円
- ◎HCC賞 若干名……最高額 30万円

②コンクール審査部門

- ※最優秀賞…沖縄国際洋蘭博覧会大賞(内閣総理大臣賞)…1点100万円
- ※優秀賞…鉢物審査の部…(沖縄開発庁長官賞)…1点50万円
- ・切花審査の部…(農林水産大臣賞)…1点50万円
- ・ディスプレイ審査の部…(建設大臣賞)…1点50万円
- ・フラワーデザイン審査の部…(文部大臣奨励賞)…1点50万円
- ・外国出展審査の部…(外務大臣賞)…1点50万円
- ※優良賞…鉢物審査の部…(沖縄総合事務局賞)…1点30万円
- ・切花審査の部…(沖縄県知事賞)…1点30万円
- ・ディスプレイ審査の部…(沖縄県知事賞)…1点30万円
- ・フラワーデザイン審査の部…(日本フラワーデザイナー協会理事長賞)…1点15万円
- ・外国出展審査の部…(沖縄総合事務局賞)…1点30万円
- ※奨励賞…若干名 (財)海洋博覧会記念公園管理財団理事長賞(副賞、各スポンサー)

AWARDS



OKINAWA INTERNATIONAL ORCHID SHOW 2000

沖縄国際洋蘭博覧会

CONTENTS

目次

挨拶..... 2

沖縄国際洋蘭博覧会実行委員会

委員長 中山 晋

Greetings

Chairman of Okinawa International Orchid Show Committee,

Mr. Susumu Nakayama

平成11年度入賞作品 AWARDS 2000

- コンクール審査部門／Competition..... 3
- 認定審査部門／Certification..... 14
- 審査員名簿／List of Judges..... 18
- スナップ／Snaps..... 19
- 国際洋蘭シンポジウム／
International Orchid Symposium..... 25
- 記念品と受賞皿について／Souvenirs..... 39
- 出展者紹介／Participation..... 40
- 熱帯ドリームセンターのご紹介／
Tropical Dream Center Information..... 42
- 協賛団体紹介／Introduction of Sponsors..... 44



GREETINGS

挨拶



沖縄国際洋蘭博覧会実行委員会

委員長 中山 晋

Chairman of Okinawa International Orchid Show Committee.

Mr.SUSUMU NAKAYAMA

「沖縄国際洋蘭博覧会 2000」の開催に際しましては、多数の出展並びに、絶大なご支援、ご協力を賜り誠にありがとうございました。おかげをもちまして、本洋蘭博覧会は盛況裏に終了することができました。

国営沖縄記念公園、熱帯ドリームセンターの開園を機に開催された本洋蘭博覧会も今回で第14回目を迎えることができ、更に、出展内容も今まで以上に充実した成果を挙げることができましたことに対し、厚くお礼申し上げます。

また、国内外の洋蘭専門家を招いての講演会では、多数の参加者による活発なご意見、ご質問があり、本洋蘭博覧会の目的である「情報交換、技術の普及・向上」等の事業が少なからず達成できたものと思います。

出展においては、本県はもとより国内からは17都府県、そして国外からは東南アジア地域を中心に、特に今回はドイツ、アメリカ、カナダ、イギリス、スリランカ、フィリピン、シンガポール、タイ、マレーシア、インドネシア、台湾等からも参加があり、また出展内容も国外からの出展数が増える等、これまでにない成果を挙げることができました。

幸い、本県は洋蘭の栽培には気候的な条件等にも恵まれ、今日では我国の洋蘭生産の拠点となりつつあります。それを背景に開催される意義は大きく、これからの国内外の洋蘭情報発信地となるばかりではなく、洋蘭を通じた国際社会の形成と本県の観光並びに花卉園芸の普及、さらには都市緑化にも大きく貢献していくことと思います。

次回、第15回目を迎える本洋蘭博覧会では、これまでの実績と新たな目標に向かって努力する所存でありますので、愛好者並びに生産者におかれましても尚一層のご研鑽をご期待申し上げると同時に、今後とも皆様方のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成12年2月

I would like to take this opportunity to express my deepest gratitude to all exhibitors to the "Okinawa International Orchid Show 2000" and to all those who have so generously provided their assistance and cooperation with the presentation of this event, thereby making it such a notable success.

The "Okinawa International Orchid Show" was first held to mark the opening of the Tropical Dream Center at the Okinawa Commemorative National Government Park. This year's show is especially significant in that it marks the 14th of the event. This year's show is on a higher level than ever before, and I would like to thank everyone who has contributed to this.

Lectures given by reknown experts from throughout Japan and abroad feature a lively repartee of questions and opinions. Such occasions lead in sure, steady steps, to the goals of our orchid exhibits: information exchange and progress and dissemination of technical expertise.

Exhibitors this year have come from Okinawa Prefecture itself, from a further 17 Japanese prefectures, from America, England, Canada, Germany, and from Southeast Asia, notably from the Philippines, Singapore and Malaysia. As befits such a commemorative event, the exhibits have been of unprecedented quantity and quality.

Okinawa is fortunate in possessing a climate ideally suited to the cultivation of orchids; the prefecture is currently in the process of becoming the main center of orchids production in Japan. These circumstances clearly enhance the significance of this event. I believe that Okinawa will become a focal point for the generation of information on orchid production both inside and outside Japan. I also hope that orchids will serve as the medium where by Okinawa can make an important contribution to international society, tourism within the prefecture, to the diffusion of horticulture, and by extension to the promotion of greenery in the urban environment.

We intend to build on our past achievements and to aim toward the realization of new objectives at the 15th "Okinawa International Orchid Show" to be held next year. In the meantime, I would like to ask both producers and lovers of orchids to raise their standards to yet higher levels. May I also ask you for your continuing support and cooperation with this event.

February 2000

コンクール審査部門
Competition

GRAND CHAMPION

沖縄国際洋蘭博覧会大賞
(内閣総理大臣賞)



Angraecum eburneum



高橋 國正 / Mr. Kunimasa Takahashi
香川県 (高松市)

今回沖縄国際洋蘭博覧会の直前まで正直言って同博覧会のことは頭にありませんでした。ところが発送する4日前たまたま自家温室に友人が立ち寄り進められ、偶然にも出展する機会に恵まれました。そして発表当日の夜事務局の方から「総合審査部門最優秀賞に、高橋様が選ばれました」との連絡があり、一瞬ランクがどの程度なのかわからずコンクール審査表をめくり、賞の大きさに驚きと戸惑いと喜びで頭の中が一杯になりました。そして今回の大賞が初めての内閣総理大臣賞と言うことで非常に感激しています。この受賞を私の一生の宝にしたいと思います。今後も努力を重ね素晴らしい蘭作りに励みたいと思います。最後になりましたが事務局その他関係者の皆様ありがとうございました。

コンクール審査部門
Competition
POTTED PLANT

鉢物審査の部

優秀賞／沖縄開発庁長官賞

PRIZE : Director of Okinawa Development Agency



Potinara Haw Yuan Gold '0-2'



榮野比 博/Mr.Hiroshi Enobi

沖縄県（具志川市）

午後8時半ごろまで、受賞結果報告の電話がなく、今回も落選かと思っていたら、岳原宜正先生から「榮野比さんおめでとう」という電話があり、たいへんびっくりし涙がでました。

もつべきものはよき先輩だと思いました。先生あっていまの自分があるようなものです。

優良賞／沖縄総合事務局長賞

PRIZE : Director of Okinawa General Bureau



Brassolaeliocattleya Goldenzelle "Lemon Chiffon" AM/AOS
徳本行雄／Mr.Yukio Tokumoto 沖縄県（那覇市）

奨励賞／海洋博覧会記念公園管理財団理事長賞



Rhynchostylis Chorchalood
オーチス農業開発公司



Brassolaeliocattleya Maikai 'Mayumi'
株式会社味泉閣ing



Vanda lamellata "Tokumoto#2"
徳本行雄／Mr.Yukio Tokumoto



Laelocattleya Meadow Gold
山本利満／Mr.Toshimitu Yamamoto



Doritaenopsis Ton Jy Pecan 'Machieda'
町田繁／Mr.Shigeru Machida



Lycaste Memoria Bill Congleton 'H8y'
守本佳子／Ms.Yoshiko Morimoto



Paphiopedilum Lippewunder 'Mutsumi'
BM/JOGA
落合功／Mr.Isao Ochiai



Cattleya Horase x Laelocattleya Elissa
棚原由美子／Ms.Yumiko Tanahara



Paphiopedilum Screaming Eagle
上地幸三郎／Mr.Kousaburo Uechi

コンクール審査部門
Competition
CUT FLOWER
切花審査の部

優秀賞／農林水産大臣賞

PRIZE : Minister of Agriculture, Forestry and Fisheries



Brassocattleya Pastoral 'Innoceace'



嶺井行吉／Mr. Yuki Yoshi Minei

沖縄県（玉城村）

自分ながらランの趣味を選択したことに間違っていないなかつとつくづく思っています。自分で手塩に育てたランが各専門家に高く評価されて、こんな立派な賞をいただき、まことに感謝にたえません。尚、今後自分の励みになり、また自分の苦勞などがどこかに消えたみたいで、ますます栽培管理に手をぬくことなく努力します。作物は「足音を聞いて育つ」の如き、今後とも初心を忘れず頑張りたいと思います

優良賞／沖縄県知事賞

PRIZE : Governor of Okinawa Prefecture



デンファレ ドミードレイク 宮里春美／Ms.Harumi Miyasato 沖縄県（伊江村）

奨励賞／海洋博覧会記念公園管理財団理事長賞



デンファレ(品種名、レモンブーケ)
徳田米蔵／Mr.Yonezo Tokuda



デンファレ(品種名、リスボン)
徳田米蔵／Mr.Yonezo Tokuda



デンファレ(品種名、クリスタルホワイト)
長嶺由守／Mr.Yoshimori Nagamine



Renanstylis Alsagoff
Mr. Prakong Pimsamarn



デンファレ ブラモット
宮里 徳正／Mr.Tokumasa Miyazato

コンクール審査部門
Competition
DISPLAY
ディスプレイ審査の部

優秀賞／建設大臣賞

PRIZE : Minister of Construction



テーマ／「集い」

(有) 紫光園

代表者：安村凱英／Mr.Yoshihide Yasumura
沖縄県（名護市）

西暦2000年、節目の年に、又、九州・沖縄サミットの開催される年にこのような賞をいただき感謝の気持ちでいっぱいです。これも社員の皆さんが一体となって取り組んだお陰と思います。九州・沖縄サミットの成功と北部の発展を心より願ひ申し上げます。

優良賞／沖縄県知事賞

PRIZE : Governor of Okinawa Prefecture



テーマ／「共生」 (資)美樹園 代表者：知念孝俊／Mr.Kousyun Chinen 沖縄県（名護市）

奨励賞／海洋博覧会記念公園管理財団理事長賞



テーマ／「花と緑のシンフォニー」
県立中部農林高等学校



テーマ／「森浪漫」
県立北部農林高等学校



テーマ／「生命のはじまり」
(有)赤嶺総合造園



テーマ／「琉球の夢」
(有)前原造園土木

コンクール審査部門
Competition

FLOWER DESIGN

フラワーデザイン審査の部

優秀賞／文部大臣奨励賞

PRIZE : Minister of Education



テーマ／「ミレニアム 昇龍の舞」

翁長幸子／Ms.Sachiko Onaga

沖縄県（沖縄市）

5度目の出展で、昨年今年と受賞できた事が、長年花にたずさわった結果だと思い、継続する事の力を重く感じます。常に身近にある植物、あまり花材として使用されていない植物を使った作品作りに心がけています。

優良賞／(社)日本フラワーデザイナー協会理事長賞

PRIZE : Chairman of directors.Nippon Flower Designers Association



知念しずか／Ms.Shizuka Chinen
沖縄県（豊見城村）

優良賞／(社)日本生花通信配達協会会長賞

PRIZE : President of Japan Florists Telegraph Delivery Association



テーマ／「キジムナーの毛遊び」
比嘉秀夫／Mr.Hideo Higa 沖縄県（那覇市）

奨励賞／海洋博覧会記念公園管理財団理事長賞



テーマ／「夢」
宮城 千明／Ms.Chiaki Miyagi



テーマ／「和にたわむれるひととき」
瑞慶山秀雄／Mr.Hideo Zukeyama



テーマ／「平和の灯び」
比嘉春恵／Ms.Harue Higa



テーマ／「森の神秘」
金城スミ子／Ms.Sumiko Kinjyo



阿波根秀子／Ms.Hideko Ahagon

コンクール審査部門
Competition

FOREIGN COUNTRIES

外国出展審査の部

優秀賞／外務大臣賞

PRIZE : Minister of Foreign Affairs



Rhynchostylis gigantea 'white'



オーチス農業開発公司
／ORCHIS FLORICULTURING INC.
台湾

連続の外務大臣賞を受賞して、この上なく光榮に存じます。今後も精進を重ねて新品種の開発、研究に努力して頑張りたいと思っています。

優良賞／沖縄総合事務局長賞

PRIZE : Director of Okinawa General Bureau



Mokara Five Friendships Fullmoon Mr.Prakong Pimsamarn タイ国

奨励賞／海洋博覧会記念公園管理財団理事長賞



Vanda Pat Delight 'Kazuko'
Ms.Kazuko Ijiri
タイ国



Vascostylis Viboon Velvet
Mr.Cheah Wah Sang
マレーシア



Paphiopedilum Ruby Peacock
'BLACK CAVIAR'
Dr.Norito Hasegawa

認定審査部門 CERTIFICATION



Brassolaelocattleya Chunyeah 'Good Life No.1'
台湾洋蘭推廣協會



Epidendrum Venus Valley 'Royal Red'
稲嶺盛昭/Mr.Moriaki Inamine



Brassolaelocattleya Haw Yuan Gold 'O-2'
奥間政正/Mr.Seishou Okuma



Paphiopedilum Screaming Eagle 'eight'
上地幸三郎/Mr.Kouzaburou Uechi



Epidendrum Venus Valley 'Red Diamond'
稲嶺盛昭/Mr.Moriaki Inamine



Rhynchostylis gigantea 'White'
オーチス農業開発公司



Paphiopedilum Lady Isabel 'Virgo' BM/10K
北瀬哲子/Ms.Tetsuko Kitase



Laelocattleya Aloha Case X Cattleya intermedia
var. delicata 'NABETA'
岡田浩和/Mr.Hirokazu Okada



Sophrolaelocattleya Love Castle 'Kurenai'
BM/JGP'98
ビオスの丘 (有) らんの里沖縄



Chysis Chelsonii 'Kuchina Oroku'
小禄茂雄 / Mr. Shigeo Oroku



Laeliocattleya Tropical Chip 'UT-6'
山内力 / Mr. Tsutomu Yamauchi



Cattleya nobilior var. Tipo 'Glerumihimeji'
竹中石一 / Mr. Ishikazu Takenaka



Paphiopedilum Lebeau 'Enami'
藤広治 / Mr. Hirozi Fuji



Potinara Pastushin's Gold x *Potinara* Memoria
Wang Tzu-Chang 'ORCHIS'
オーチス農業開発公司



Paphiopedilum Ruby Peacock 'BLACK CAVIAR'
Dr. Norito Hasegawa



Ascocenda Suksamran Sunlight 'Rangsit'
Mr. Masaru Shioya



Paphiopedilum haynaldianum var. album 'Charles'
小田豊明 / Mr. Toyoaki Oda



Paphiopedilum Great Pacific 'Tokyo'
上地淳司 / Mr. Jyunsu Uechi



Paphiopedilum Snowy Owl 'Moon Drop'
安長蘭園 安長博文 / Mr. Hirohumi Yasunaga



Paphiopedilum Candy Apple × Paphiopedilum
Mod Maude 'ARAKAKI'
新垣洋らん園



Cattleya nobilior var. coerulea 'King Hiro Himeji'
竹中石一 / Mr. Ishikazu Takenaka



Brasora elocattleya Goldenzele 'Lemon Chiffon'
AM/AOS
徳本行雄 / Mr. Yukio Tokumoto



Doritaenopsis (Taisuco Beauty × Bc. Herbert Hager) ×
Doritaenopsis Taisuco Firebird 'KOZUE'
新垣洋らん園



Paphiopedilum Jennifer Kalina 'M-U'
内田正比古 / Mr. Masahiko Uchida



Laelocattleya Memoria Robert Strait 'Blue
Hawaii'
徳本行雄 / Mr. Yukio Tokumoto



Paphiopedilum Lebeau 'Tamaki'
玉城詠光 / Mr. Eikou Tamaki



Sophrolaelocattleya Lani Bird 'Helen Palki'
富本裕英 / Mr. Yusei Tomimoto



Vanda Robert's Delight 'Red'
Mr. Viboon Subunju



Paphiopedilum Norito Hasegawa 'MIHOSO'
ピオスの丘 (有) らんの里沖縄



Sophrolaelocattleya Million Kiss 'Cupid'
ピオスの丘 (有) らんの里沖縄



Potinara Elegant Dancer 'O.K.Otori'
岳原宜正/Mr.Gisei Okahara



Potinara Haw Yuan Gold 'YK#2'
新垣ナナエ/Ms.Nanae Arakaki



Paphiopedilum Moderato River 'Nagomi'
山崎守勝/Mr.Morikatsu Yamasaki



Laeliocattleya Melody Fair 'Soprano'
徳本行雄/Mr.YukioTokumoto



Potinara Kozo's Scarlet 'Vi-Emi'
(株) 東京オーキッドナーセリー



Paphiopedilum Pacific Magic x Paphiopedilum
Tuxedo Junction 'OKINAWA BEAUTY'
Dr. Norito Hasegawa



Laelia Santa Barbara Sunset x Potinara Love
Passion 'MIHOSO'
ピオスの丘 (有) らんの里沖縄



Brassolaelocattleya Princess Masako 'Fumi
Nakama'
名嘉真勉/Mr.Tsutomu Nakama



Paphiopedilum venustum var. album 'Josai'
桜井幸広/Mr.Yukihiko Sakurai

審査委員名簿

LIST OF JUDGES

審査委員長 Chairman of Judges

高橋 靖昌 日本洋蘭農業協同組合 副組合長

審査委員 Judges

Dr. Norito Hasegawa	アメリカ蘭協会
Dr. Henry Oakeley	イギリス蘭協会会長
Mr. Gerd Rollke	ドイツ蘭協会会長
Mr. Lutz Rollke	ドイツ蘭協会
Mr. Dean Mulyk	バンクーバー蘭協会
Mrs. Marie-Pascale Rivet	バンクーバー蘭協会
Dr. Rapee Sagarik	タイ国蘭協会会長
Mrs. Kalya Sagarik	タイ国蘭協会副会長
Mr. Rajah Sreenivasan	マレーシア蘭協会
Mr. Sutikno Linuhung	インドネシア蘭協会
Mr. Syed Yusof Alsagoff	東南アジア蘭協会
Mr. D.B.Sumithraarachichi	ペラデニア植物園園長
Mr. Lu,Tse-Ming	台湾洋蘭推廣協会事務局長
高 水恩	台湾洋蘭推廣協会蘭展審査長
唐澤 耕司	ラン研究家理学博士
上里 健次	琉球大学農学部生物生産学科 教授
大田 孝治	日本蘭協会 副会長
神原 隆一	日本蘭協会 審査副委員長
山崎 守勝	全日本蘭協会
佐藤 春雄	全日本蘭協会
合田 一之	日本洋蘭農業協同組合 正審査員
江尻 宗一	日本洋蘭農業協同組合 正審査員
山谷 渉	蘭友会 副会長
赤井 三夫	蘭友会 副会長
徳本 行雄	沖縄県蘭協会 会長
岳原 宜正	沖縄県蘭協会 副会長
安田 徳昭	沖縄県蘭協会 理事
山川 宗賢	北部らん友会 幹事
伊禮 輝夫	沖縄県経済農業協同組合連合会 園芸部次長兼花卉課長
園田 茂行	沖縄県花卉園芸農業協同組合 営農指導部長
高平 三郎	(社)日本造園建設業協会 専務理事
井上 忠佳	(社)ランドスケープコンサルタンツ協会 専務理事
新垣 善孝	沖縄県緑化種苗協同組合 理事長
前原 朝信	(社)沖縄県造園建設業協会 会長
笠原 貞男	(社)日本フラワーデザイナー協会 理事長
吉野 郁三	(社)日本生花通信配達協会 直前会長
山内 晴子	(社)沖縄県婦人連合会理事
和宇慶 朝健	沖縄県立芸術大学 教授
宮田 倫夫	(財)海洋博覧会記念公園管理財団事務局長
花城 良廣	(財)海洋博覧会記念公園管理財団都市緑化植物園園長

SNAPS
 審査会 (Judging)
 表賞式 (Official Commendation)



大賞受賞者への表彰



審査風景



審査風景



懇親会



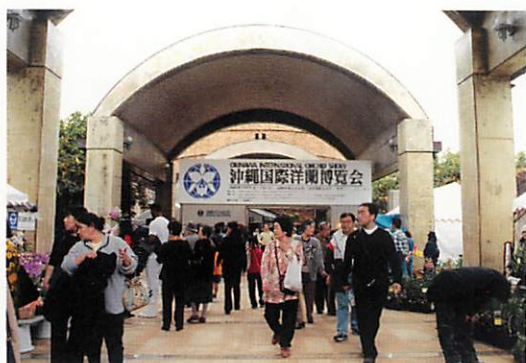
懇親会



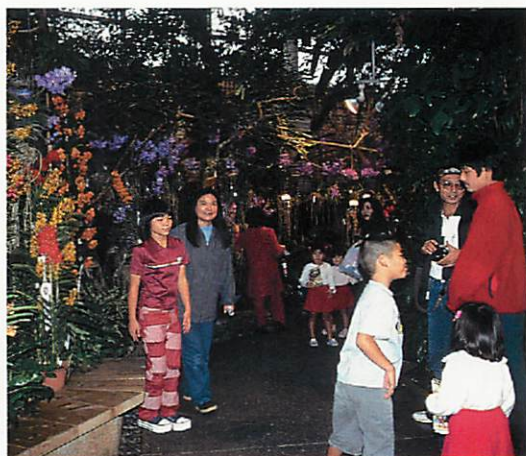
SNAPS

一般公開

(Open to the General)



ディスプレイ展示会場





展示会場内はまるでランの海



大臣賞受賞株展示状況



フラワーデザイン（総合デザイン）展示会場



フラワーデザイン（ニューブーケ）展示会場



世界の珍しいラン展。今回はタイに自生するランを展示



タイで生産された切花や
もっとも大きく生長するラン
グラマトフィラムも展示(中央)



タイに自生するランを展示



ガーデンコンサート



いけばな展会場



洋ランプレゼントクイズ



ランの栽培相談コーナー



展示即売会



展示即売会

SNAPS

いけばな展

沖縄県華道連盟の協力を得て10流派による蘭を活けるいけばな展を開催。

期間：平成12年2月10日（木）～13日（日）



一葉式いけばな

大嶺清溪（智江）
金城清裕（裕江）
仲泊博清（博子）
宮城清秋（絹子）



古流松藤会

潮平理保（保子）
仲本理美保（美保子）
真境名理智（美智子）
村吉エミ子



桜花遠州流

山里利智（智代子）
内田昌勝（勝子）
我那覇利敬（ケイ子）
与那嶺智弘（弘子）



嵯峨御流

仲程静甫（静子）
具志堅節甫（節子）
平良江美甫（江美子）
大城文甫（文子）
比嘉康甫（康江）
宮城律甫（律子）
宮城峰子



小原流

高江洲豊栄（良枝）
崎山翠洋（洋子）
山城豊恵（八重）
島袋翠玉（ひとみ）
具志堅陽苑（マサ子）
真志喜陽栄（栄子）
下門豊翠（トキ子）



専正池坊

照屋雅幸（雅二）
金城紅柳（節子）
比嘉秋聲（よし）
玉城文操（文乃）
崎浜和仙（和美）
山城咲苑（咲登美）
棚原綾月（綾乃）



華道家元池坊

上間恵津子
金城ちさと
桑江恵美
仲本興太郎
仲本尚子
呉屋園子
知念紀子



草月流

松野嵯園（末子）
世嘉良嵯仙（博子）
亀谷吏希（敬子）
新垣昭陽（景子）
兼次智子
大城文野
喜屋武涼桜（マサエ）



華道草真流

平良覺泡（勝子）
又吉覺悦（秀子）
新田覺眺（由紀子）
平良覺泉（奈奈）



龍生派

仲程房華（房子）
大城代華（加代子）
新城百華（百合子）
新垣智華（智佳子）
東恩納宗陽（美枝子）
清水宗翠（しげみ）
徳村宗鈴（鈴江）



国際洋蘭シンポジウム

International Orchid Symposium



沖縄国際洋蘭博覧会では国際洋蘭シンポジウムとして、イギリス、アメリカ、ドイツ、カナダ、日本の蘭関係者による基調講演（各国における蘭の生産と消費状況）並びに、タイ、シンガポール、日本（沖縄）の蘭関係者を加えたパネルディスカッションを行った。

The International Orchid Symposium was held as part of the Okinawa International Orchid Show. Keynote lectures on the production and consumption of orchids in each country were presented by orchid specialists from the United Kingdom, the United States of America, Germany, Canada and Japan.

A panel discussion, involving orchid specialists from Thailand, Singapore and Japan (Okinawa) was also held.



コーディネーター/COORDINATOR
上里 健次 博士
Dr. Kenji Uezato



イギリス/United Kingdom
ヘンリー・オークレー博士
Dr. Henry F. Oakeley



ドイツ/Germany
ルッツ・ロールケ氏
Mr. Lutz Röllke



アメリカ/America
ノリト・ハセガワ 博士
Dr. Norito Hasegawa



カナダ/Canada
ディーン・ムリク氏
Mr. Dean Mulyk



日本/Japan
高橋 靖昌氏
Mr. Yasumasa Takahashi



タイ/Thailand
ラビー サガリック 博士
Dr. Rapee Sagarik



シンガポール/Singapore
セド ユソファルサゴフ氏
Mr. Syed Yusof Alsagoff



日本(沖縄)/Okinawa
上間 良廣氏
Mr. Yoshihiro Uema



イギリスにおける蘭の生産と消費

Orchid Production and Consumption in the United Kingdom

ヘンリー・オークレー博士 イギリス蘭協会会長

Dr. Henry F. Oakele

President, Orchid Society of Great Britain

Charman, Royal Horticultural Society Orchid Committee

Charman, RHS Orchid Registration Advisory Committee

英国は、洋蘭の商業的栽培というものが地球上で始まって以来ずっとそのビジネスに携わってきました。熱帯産の非在来種洋蘭の輸入と栽培がイングランドで始まったのは1760年で、それは*Epidendrum rigidum*が入ってきた時です。1809年になり王立園芸協会（RHS）が熱帯産の蘭に興味を持ち、ロンドン西部の温室で栽培を始めました。この時から洋蘭の売買が本格的に始まったのです。

1818年にブラジルから*Cattleya labiata*が導入されると、有名な金持ちたちが蘭の収集をしたり、大きな蘭の温室を作ったりするようになりました。最初のうちは、蘭の商売といえば主にフリーのトレーダーや、サンダースなど次々に誕生した商業的な蘭園によって送り出されたコレクターによる輸入を意味していました。フリーのトレーダーたちは自分たちの蘭をロンドンのオークションで売っていましたが、最初の*Paphiopedilum fairrieanum*は80年前に、現在の価値では約1780万円に相当する1000ポンド以上の値段で取引されました。

蘭園が発達するにつれ、国際取引がはじまりました。日本は、言うまでもなく、何世紀にもわたって蘭の固有種を栽培していましたが、日本に在来種以外の蘭（シンビジウム、オンシジウム、スタンホペアなどが大部分でした）が初めて輸入されたのは、1883年に英国からで、この時に始まった蘭のビジネスが今日まで続いているわけです。

1830年頃から王立園芸協会（RHS）は、蘭などのより優れた変種の開発を促進する目的で花博を開催するようになりました。1859年には同協会がフローラル・コミッティーを設立して、個々の植物を判定し、素晴らしい品質のものにはAMやFCCと呼ばれる認定証を与えるようになりました。こうして、同協会は洋栽培蘭の水準を引き上げるといふ大きな仕事を始めたのです。彼等はまた1856年に最初の蘭のハイブリッド（*Calanthe*と*Dominii*との雑種）を育てました。RHSは1889年に洋蘭委員会を作りましたが、初期に受賞した蘭の一つとして*Vanda Miss Joaquim*（*V. hookeriana*と*V. teres*との交配）があり、これは1897年にFCC/RHSを受けていますが、洋蘭委員会による評価のためにシンガポールから船で送られたものです。この蘭によってシンガポールにおける洋蘭の切り花ビジネスが始まったと言われていますが、RHSによる品質認定がそれに役買っているのは間違いないと思います。

二つの世界大戦によって、ヨーロッパにおける貴重な民間の洋蘭のコレクションはほとんど焼失しました。商業的な洋蘭栽培の中心は収集された野生種からハイブリッド種の大量生産へと移っていきました。これは特にオランダにおいて顕著で、この国では毎年2億個の株が生産されています。しかし、ここでの植物生産はほぼ完全に自動化されています。ファレノプシス属は現在シクラメンに次いでヨーロッパで二番目に人気のある鉢植え植物になっています。

英国における民間の蘭園のほとんどは小さな家族ビジネスで、他の職業を引退して洋蘭の栽培に携わっている人々が経営しています。そのうち、バーナム、マクビー、アイヴセンズ、オーキッド・アンサーズの四つが大手です。バーナムは主にアマチュア市場向けの種類に特化していて、オランダからハウスプランツ用にハイブリッドを輸入しています。オーキッド・アンサーズとマクビーは英国市場で関心の高いハイブリッド・グループであるシンビジウム、コショウラン、ミルトニア、オンシジウム、オドントグロッサムなどの種類や、さらにアマチュア向けのパフィオペディラム、それにいくつかのマデバリアとその種などを主に扱っており、アイヴセンズは花の卸売り市場を相手に商売をしています。ほとんどの花屋はオランダから輸入される鉢植えの蘭やシンビジウムやオンシジウムの切り花を仕入れています。洋蘭産業の規模を示す数字はありませんが、英国への切り花の輸入は年におよそ700万から800万スパイクで、金額にして約5億3400万から7億1200万円だと思われます。花屋向けのデンファレの切り花はタイとその近隣諸国から輸入されています。

王立園芸協会はおよそ30万人の会員数を誇り、毎月の花の展示会、年に一度の洋蘭の展示会、さらにチェルシー・フラワー・ショウなどの大規模な博覧会などを催しており、そうした機会に優れた洋蘭の展示を促進しています。協会の最も重要な機能の一つはオーキッド・ハイブリッド・レジストレーション・オーソリティーとしての役割で、世界中で作られる洋蘭の新しいハイブリッドをすべて記録し、それらを年に6回国際的に出版される会報「オーキッド・レビュー」で公表することです。洋蘭委員会は、フロリダから来たパンダのハイブリッドからラテン・アメリカ産の新種に至るまで、世界中から評価と認定を求めて送られてくる洋蘭の判定を続けています。

The United Kingdom is a group of countries. England, Wales and Scotland - which form the entity known as Great Britain - with Northern Ireland, that lies a few miles out into the North Atlantic Ocean to the West of mainland Europe. With a population of 60 million, a temperate climate (usually between -6°C and 27°C), it measures 1,000 miles (1,600 kilometres) from tip to tip and no part of it is more than 50 miles (80 kilometres) from the sea. It has been involved in growing orchids commercially since that trade began.

The importation and cultivation of tropical non-indigenous orchids began in England in the year 1760 with the introduction of *Epidendrum rigidum*, although *Brassavola nodosa* had been in cultivation in Holland since 1698. It was not until 1809 that the Royal Horticultural Society, then known as the Horticultural Society, started an interest in tropical orchids and to grow them in their greenhouses at Chiswick in West London. It was from this beginning that the orchid trade really began. In 1812 the first commercial orchid nursery, that of Conrad Loddiges began trading. The introduction of *Cattleya labiata* in 1818 by Swainson from Brazil, the collections of George Ure Skinner in Guatemala, and the activity of John Lindley at Kew in classifying orchids and in growing them led to rich and famous men like the Duke of Devonshire and others to collect and to build large orchid houses. Initially the trade in orchids was mainly importation from freelance traders like Skinner, and by collectors sent out from the many commercial orchid nurseries that developed - Sanders, Veitch, Low, and others. The freelance collectors sold their plants at auction in London, sometimes for huge prices. The first plant of *Paphiopedilum fairieanum* was sold for over £1,000 80 years ago, an equivalent of £100,000 in present day money. Collectors sent back orchids from all over the world, including Malaysia, Latin America, Africa, and India to the United Kingdom. As the orchid nurseries developed, international trade began. Japan, of course, had for centuries cultivated its own endemic orchids but it was from England, in 1883 that the first non-indigenous orchids - mostly cymbidiums, oncidiums and stanhopseas - were imported into Japan for the greenhouses of Viscount Itsujin Fukuba, so beginning a trade that has continued to the present day.

From about 1830 the Royal Horticultural Society had been holding flower shows to encourage the development of better cultivars, including orchids. In 1859 it set up a Floral Committee to judge individual plants and to give certificates called the 'Award of Merit' and the 'First Class Certificate' to outstanding plants. In this it began the great task of raising the standard of orchids in cultivation. The first plant to be awarded by this new Committee was *Cattleya Dominiana* (C. maxima x C. intermedia) exhibited by the orchid nursery of Messrs J Veitch which received an FCC/RHS. They had also raised the first orchid hybrid - *Calanthe x Dominii* - in 1856. The RHS Orchid Committee was formed in 1889 and included men like Joseph Charlesworth whose nursery was one of the earliest to introduce laboratory seed sowing. From 1897 all the orchids awarded by this Committee have been painted and form an invaluable record of the breeding of commercial orchids in the past one hundred years. One of the first to be awarded was *Vanda Miss Joaquim* (V. hookeriana x V. teres) FCC/RHS in 1897 that had been sent to the Orchid Committee, by ship from Singapore, for assessment by the Committee. It is said that this orchid started off the cut flower orchid trade in Singapore, and I am sure that the recognition of its quality by the RHS contributed to this decision. In looking at the RHS's paintings of awarded orchids one can see the great advance of Cymbidium breeding through the 20th century at McBean's Orchid Nursery, of the development of complex *Paphiopedilums* at Ratcliffes and more recently in the breeding of Cymbidiums, *Odontoglossums*, *Miltonias* and *Phragmipediums* at the Eric Young Orchid Foundation.

Two World Wars have led to the disappearance of most of the great private orchid collections of Europe. Commercial cultivation of orchids has moved away from wild collected species to mass production of hybrids, especially in Holland where 280 acres of glass house (nearly 700 hectares) are devoted to orchid growing, producing some 200 million plants per year. The nursery of Mr Schoone alone produces 15 million orchid plants per year, with 70 staff working at flaking and meristemming but with plant production almost completely automated. *Phalaenopsis* orchids are now the second most popular pot plant to be purchased in Europe, with *Cyclamen* still holding the lead. With the United Kingdom in

the European Union there are no trade barriers like import taxes, CITES or phytosanitary regulations to impede the movement of orchids within the member states.

In the United Kingdom the main interest of the amateur orchid grower has returned to species. There are 40 orchid societies and 20 commercial orchid growers. Interest in orchids is small, for example, the Orchid Society of Great Britain, the largest society, has about one thousand members, and all the other societies have between 30 and 150 members. These amateurs are however important in orchid conservation, preserving the gene pool in specialist orchid collections to maintain its accessibility for commercial use. One of the innovative projects in the last 20 years has been that of the National Council for the Conservation of Plants and Gardens. This encourages and recognises national collections of plants of importance to horticulture. It now has recognised some 600 collections of different plant genera from *Quercus* to *Chrysanthemum* including 16 National Plant Collections of orchids which form a valuable resource for research and breeding.

Most of the commercial nurseries in the United Kingdom are small family affairs run by men and women who have retired from other occupations to grow orchids. The four main nurseries are Burnhams, McBeans, Ivens and Orchid Answers. Burnhams concentrates mainly on species for the amateur market, buying in hybrids for the house plant trade from Holland, Orchid Answers and McBeans concentrate on the main hybrid groups of interest to the UK market, of *Cymbidium*, *Phalaenopsis*, *Miltonias*, *Oncidiums*, *Odontoglossum*, and *Paphiopedilums* for the amateurs, with some *Masdevallias* and species, while Ivens concentrates on the wholesale florist market. With the departure of Ratcliffes to the USA there is a gap in the market for *Paphiopedilums* in the UK that has not yet been filled. Most florists are supplied with pot plant orchids from Holland, with cut flower *Cymbidium* and *Oncidiums* from the same source. While there are no available figures for the orchid plant trade, the cut flower importations to the UK are approximately 7-8 million spikes a year with a value of £3-4 million Pounds sterling. *Dendrobium Phalaenopsis* cut flowers for the florist market come from Thailand and surrounding countries. Most of these plants are destined, like the cut flowers, for indoor, windowsill culture by non-orchidists.

The most important resource for orchids in the United Kingdom is the Eric Young Orchid Foundation in Jersey, an island some miles off the south eastern coast of England. This orchid nursery was set up by Mr Eric Young to continue his collection after his death, with the aim of breeding orchid hybrids for exhibition and display. Currently this is managed by Mr Alan Moon His national and international displays, and the numerous AMs and FCCs that have been received by his plants have made the Foundation famous around the world. He has been concentrating on *Odontoglossums*, continuing the work of Charlesworths and McBeans Orchid nurseries and their hybrid genera as well as greatly improving standard *Cymbidiums*, waterfall *Miltonias* and *Phragmipediums* especially using *Phrag. bessaie*. The surplus plants from the Foundation are released into the UK market through the commercial nurseries and are highly sought after by orchid growers around the world. While the orchid industry in the United Kingdom may be small, one does not (as the old English proverb says) get diamonds as big as potatoes, and we can all be proud of the quality of the Eric Young Orchid Foundation breeding programme.

The Royal Horticultural Society has a membership of nearly 300,000 and holds monthly Flower Shows; an annual orchid Show; the Chelsea Flower Show and other large shows, where it promotes the exhibition of superior orchids. It trains orchid growers at the RHS Orchid houses in its Wisley Gardens 25 miles, 40 kilometres, south of London and provides a year round display in its orchid house there. One of its most important functions is being the Orchid Hybrid Registration Authority, recording all the new orchid hybrids that are made around the world and publishing them 6 times a year in its international publication. The Orchid Review The Orchid Committee continue to judge fine orchids from around the world, be they *Vanda* hybrids from Florida or new species from Latin America that are brought to us for assessment and for award.

I hope this talk has been of help to you in understanding the nature of orchid growing in the United Kingdom.



ドイツにおける蘭の生産と消費

Orchid Production and Consumption in Germany

ルッツ・ロールケ氏 ドイツ蘭協会

Mr. Lutz Röllke

member of the German Orchid Society

member of the European Orchid Committee

ここ数年でヨーロッパの市場は全く変わってしまいました。70年代には、洋蘭は特別な植物で、特に関心のある人々だけが買い求めるものでした。蘭の栽培家は誰も、大きさ、形、色などの点で質の高いものを生産することを目指していました。こうした植物は高価なものに違いなかったのですが、それだけのお金を払う人々がいたので、ドイツにも英国にも数多くの蘭園がありました。80年代になると、最初の植物専門販売店がオープンしましたが、販売量が少なかったため、まだ比較的高い値段で売られていました。やがて大量生産が始まり、蘭の価格も着実に低下していききました。この間多くの蘭ナースリーが廃業しました。というのも経営者が年を取り、後継者がいなかったからです。

そうこうするうちにオランダで大量生産が始まりました。一つ二つの研究所が残っていた数少ないナースリーに、コチョウランの苗、オドントグロッサム・アライアンスのメリステム（分裂組織）、ミルトニアのメリステム、それに「アメリカン・ハイブリッド・パフィオペディラム」などを供給しました。苗を殖やすための交配親株はドイツに残り、フラスコと苗だけが売られました。間もなく、蘭の苗の供給者たちは、花の質や大きさや形に關係なく、一ついくつで売れることに気がきました。それで、花の外見にはとらわれず、丈夫に速く育てることだけを目的としたブリーディング・ラインが導入されました。栽培に要する時間は数年前の半分近くにまで短縮されました。以前はコチョウランが六つ以上の花（直径10センチ以上）をつけるまでには普通6年から8年かかっていましたが、3年から4年でただけで売られるようになりました（直径は7-8センチ）。そしてもちろん、価格は着実に下がっていました。60年代や70年代には、60マルクから100マルク程度の値段で売られていた普通の蘭が平均価格20マルク以下にまで値下がりしました。

洋蘭生産の第二段階になると、オランダやドイツの生産者はバラと蘭の両方を作るのを止めて蘭だけに専念するようになっていきました。90年代の初めには、蘭園でミルトニア、デンドロビウム、パフィオペディラム、コチョウランなどを育てていました。

そして現在蘭生産の第三段階が始まりつつあります。コチョウランのメリステムが導入され、とても成功しています。今や、特定品種を作る蘭工場だけが残り、デンドロビウムだけを作っていたり、コチョウランだけを作っていたり、パフィオペディラムのプライマリー・ハイブリッドだけを作っていたり、あるいは、パフィオペディラムの「アメリカン・タイプ」だけを作っていたりします。栽培管理は完璧で、必要な時に合わせて必要な量を全部生産することができます。例えば、母の日には、以前は蘭が品不足になっていました。しかし今では、最新の品種選択と完璧な栽培管理によって、この日は供給過剰になるほどです。当然、価格は以前に比べてずっと安くなりました。鉢植えについては、すでに大規模生産はナースリーでは行われておらず、工場だけになっています。生産はコンピュータで管理されており、栽培過程

には人は一人も関わりません。鉢に植えたり、収穫するのにだけ人手が使われます。

マーケティングは個々の蘭園が自ら行う場合と、「クロック」と呼ばれる方式で別の業者に委託する場合とがあります。

独自にマーケティングを行う利点は、顧客次第で、一年を通して相應の値段で売ることができるということです。短所としては、販売が顧客やそのニーズに左右されますから、作り過ぎた分や、流行から外れた植物は全く売れず、捨てるしかないということです。こうした蘭をもう一年作ろうとする別鉢に植え替える必要がありとても費用がかかります。

「クロック」方式で売られる場合の利点は、花の質や大きさや色などに関係なく、納入したものがすべて売れて、確実にお金が入ってくるということです。さらに、蘭園自身はマーケティングに一切関わる必要がありません。花は別の民間業者によって箱詰めされ、運ばれ、そして市場に出されます。この方式の欠点は

どれだけのお金が入ってくるのかが分からないということです。花の品質が良く、需要があれば、高い値段が付いて大金を稼ぐことができますが、生産過剰（毎年春には必ず起ります）の場合は、鉢植えの価格が苗を買った時の価格より低くなってしまふこともあります。

「クロック」式で別の業者に売られる花も独自に売られる花もスーパーに行き、花の咲いたコチョウランで12.9マルクからおおよそ40マルク程度の価格で販売されます。特売品などは6.5マルクくらいからの値段になります。1998年における鉢植え生産のコチョウランの平均卸値は約9マルクでした。スーパーや花屋での平均価格は18マルクでした。この統計に含まれていないのは、輸送時の損傷、不適切な取り扱い、つばみの落下などのせいで販売されなかった花で、これは全体の少なくとも30%はあるはずです。

オランダとドイツにおける鉢植え蘭の生産量は全体で400万個ほどですが、これは今後数年間で1000万個に増えるはずです。新しい研究所も作られるでしょうし、コチョウランは一番人気の蘭というだけでなく、ほどなくヨーロッパで一番人気のある鉢植え植物になることでしょう。

一方、大量生産のせいでしばらく忘れられていた専門家向けの市場もやや復活しつつあります。より多くの人が蘭を買うようになっており、栽培方法を説明さえしてもらえば、家で上手に蘭を育てることができる人もいます。それで新しいマーケットができ、すでにかなりの数の人々（たいいていは50歳以上）が再び蘭に関心を持つようになっています。ですから、質の高い花を育て、稀少種の繁殖を行っているわずかに残った蘭園は、交配親株を保管しており、ここ数年間は厳しい状態でしたが、今後はビジネスを続けていくチャンスも出てくると思われます。

During the last years the market in Europe has completely changed. In the 70ies orchids were special plants, sold to and bought by only very interested people. The aim of every orchid breeder was the production of high quality plants regarding the size, form and colour. Although these plants must be expensive, the prices charged were paid and many nurseries in Germany and Great Britain did exist. In the 1980ies the first plant super stores opened, but due to only a small amount of plants offered, the prices were still comparatively high, but the process of mass production started and the prices for orchids constantly decreased. During this time, many orchid nurseries closed, since the owners were getting old and there was nobody to continue.

In the meantime, the Dutch mass production started. One or two labs supplied the few nurseries with Phalaenopsis seedlings, Odon-toglossum Alliance meristems, Miltonia meristems and "American Hybrid Paphiopedilum". The stud plants for the seedlings stayed in Germany, and only flasks or seedlings were sold. Pretty soon the suppliers of young orchid plants found out, that the money is paid per plant regardless the quality of flowerquality, flowersize of form. So a breeding line, only concentrating on fast growing and vigorous plants started, regardless what the flower look like. The horticultural time of culture was reduced to nearly half the timeneeded a few years ago. Phalaenopsis, that normajly lasted 6-8 years for a plant to flower with more than 6 blooms (10cm or more in diameter) were now sold after 3-4 years of culture only (only 7-8cm in diameter). And off course, the price decreased constantly. Where normal plants were sold in the beginning for DM 60 - DM 100.00 in the 60ies and 70ies, now the average price was DM 20.00 or less.

During the second phase of orchid production more and more growers in the Netherlands and the rest in Germany decided, not to grow roses and orchids anymore, but to specialize in only Orchids. During the beginning of the 90ies you could find nurseries growing Miltonia, Dendrobiums, Paphiopedilum and Phalaenopsis.

And right now the 3rd phase of orchid production is starting. Phalaenopsis meristems have been introduced and very succesful. There are only Orchid factories left, producing only Dendrobiums or only Phalaenopsis or only Paphiopedilum primary hybrids or only Paphiopedilum "American Type" and so on. The culture is controlled so perfect that you can have nearly every amount of orchids produced for the time needed. For example: On Mother's day, where nearly 50%, and more of orchid cut-flower production (of the whole year) is sold, orchids were very rare. Due to newest selection of plants and perfect control of culture, there is even an overproduction for this day. Naturally the price is a lot lower than it used to be. And for pot plants the production halls are not nurseries anymore, but only factories. Production is controlled by computers, and not a single person is involved in

any kind of culture, only for potting and harvesting humans are needed.

The marketing can either be organized privately like some nurseries do or public through the "clock".

Private marketing has the advantage that depending on your customers you can get reasonable prices for your plants throughout the year. The dis-advantage is, that you depend on your customer and his needs, so any kind of over-production or plants out of fashion cannot be sold and must be thrown away. To grow this plants for another year is already too expensive, because they need repotting.

Selling plants over the "clock" has the advantage, that everything being delivered is sold and the money is guaranteed, no matter what the quality or the size or colour of plants is like. And in addition the nursery does not have anything to do with the marketing. The plants are packed, and will be picked up and marketed by another private organisation. The disadvantage is that you never know how much money you will get for your plants. If you have good plants and there is a demand the price for your product will be very high and a lot of money can be earned. But in case there is an overproduction (and every spring time there was one every year), the price for a pot plant can be less than the price you have paid for the seedling.

The plants being sold to the different agents at the "clock" or privately are then transported to supermarkets and sold at a price range from DM 12,90 to about DM 40,00 for flowering phalaenopsis, if there are specials the price can start at DM 6,50. The average price for a produced pot phalaenopsis in 1998 was about DM 9,00. The average price in the supermarkets and flowershops is DM 18,00. Not in this statistic are the plants not being sold due to transport damage, wrong handling, dropping buds and so on. This should be at least 30% of the plants.

The overall production of orchid pot plants in the Netherland and Germany was around 4.000.000 plants and in the next very few years the production will increase to about 10.000.000 plants. New labs are going to be build and the phalaenopsis will not only be the number one orchid, but the number one pot plant in Europe before long.

On the other hand, the specialist market, being neglected for a couple of years due to the mass production is now slightly returning. Many more people buy orchids and if they get explained, how to Cultivate them, they do have success in their home growing orchids. So a new market is open and already quite a few people (mostly aged 50 and older) do get interested in orchids again. So the few orchid nurseries, that do quality breeding and also propagating rare species, kept their stud plants and hopefully will have a good opportunity in future to be able to continue their work after having a hard time during the last few years.



アメリカにおける蘭の生産と消費

Orchid Production and Consumption
in the United States of America

ノリト・ハセガワ博士 アメリカ蘭協会

Dr. Norito Hasegawa
American Orchid Society

皆様ご存知のとおり、アメリカはアラスカとハワイを含めると非常に広い国です。アメリカの最南端に位置するのがハワイとフロリダのマイアミで、沖縄とはほぼ同緯度にあります。気候に関しては、アラスカはツンドラがあり、また高山森林もあります。カリフォルニアでは地中海気候、テキサスやアリゾナには砂漠、ハワイには熱帯雨林があります。

アメリカにおける蘭の生産と消費は過去最高です。愛好家の数もそうですし、蘭協会も急激に増えています。このような蘭協会のミーティングにはロサンゼルスから車で一時間から一時間半走れば、毎日あるいは毎晩、参加することができます。蘭協会は約30団体あり、一般的には蘭全体を対象としている蘭協会が大半ですが、屋外で育つ蘭、パフィオペディラム、シンビジウム等、特定のタイプを対象にする蘭協会もあります。また、中には原種のみを対象にする蘭協会もいくつかあります。

アメリカにおける主な蘭の生産地はカリフォルニア、フロリダ、そしてハワイです。その中でもカリフォルニアが一番で、特に中部と南部の生産量が高くなっています。1998年における花卉栽培作物全体の卸売価格は約40億ドルであり、かつてAOS(アメリカ蘭協会)に所属していましたネド・ナッシュ氏によりますと、蘭産業は卸売総額は約1億ドルとの事です。また、蘭の初期生産は大半が台湾等海外で行われ、その後再びアメリカに持って来られます。しかし、もともとその

種子の多くはアメリカで作られたものです。

米ドルでの売上高から見て、最も人気の高い鉢植え蘭を三つ挙げると、ファレノプシス、デンドロビウム、オンシジウムです。その内ファレノプシスが特に飛び抜けており、現在、花をつける鉢植え植物の中でも売上高は4番目です。鉢植え植物のトップは勿論ポインセチアです。

小売りの面からみた蘭の流通では、デパートやスーパーマーケットを通じたものが最も早い成長を見せています。小売における切り花、特にコサージュ向けの種類は低下気味であり、一時はカトレアが広く使用されていましたが、現在はおそらくシンビジウムの方が多く使用されています。切り花は一般家庭や事務所、ホテル、レストラン等において利用頻度が高まっており、特にデンドロビウムやバンダ、オンシジウムの使用が増えています。

蘭の愛好家への売上げは変動しがちであるため、愛好家の市場だけを対象にした生産事業はどんどん減少しています。屋外で育つ蘭、プレウロタリス、パフィオペディラム、ファレノプシス、原種等を限定して販売する依然として人気の高い専門温室は多数あります。しかし、これらは蘭市場のほんのわずかな割合しか占めておらず、愛好家に売るために多様な種類を保持する会社にとって、利益を維持するのはますます困難になってきています。

United States is a very large place, especially if we include Alaska and Hawaii. Our southernmost point in the United States would be Hawaii and Miami, Florida, which is essentially as far south as Okinawa. Our climate zones include the tundras of Alaska, which actually has native orchid species, through the Alpine Forest, Mediterranean climate of California, the harsh deserts of Arizona and Texas and the lush tropical rain forests of Hawaii.

The production and usage of orchids in the United States is at an all time high, as well as the number of hobbyists and the proliferation of orchid societies. One can attend a meeting every day or night of the month within an hour to hour and a half drive from Los Angeles. There are more than 30 societies, and although most of the societies cover all orchids in general, we have groups who concentrate on only outdoor growing orchids, or Paphiopedilums, or Cymbidiums and several groups concern themselves with only species orchids.

As far as wholesale production of orchids is concerned, the major areas of production are in California, Florida and Hawaii. With California leading the nation in production, especially the central and southern parts of California. The wholesale value of all floral cultural crops in 1998 was nearly 4 billion dollars U.S.. Ned Nash, formerly of the AOS Orchid Education and Conservation Department feels the orchid industry is nearly 100 million in wholesale amounts. It is interesting to note that most of the initial production of the orchids are produced offshore, such as in Taiwan, and

then they are then brought back to the United States. Many of the pods, however, are created in the States and then sent to those countries for production.

The top 3 pot plant orchids by U.S. dollar volume sold are Phalaenopsis, Dendrobiums, and the Oncidium Alliance. Phalaenopsis pot plants are by far the most important. They are now the number 4 flowering potted plant by dollar volume. Poinsettias of course are the top potted plant. One of the fastest growing retail areas of distribution of orchids is through our large department and grocery stores.

Retail cut flowers, especially corsage-oriented types are declining. Cymbidiums are probably now more often used than Cattleyas, which were the predominant cut flower, at one time. Cut flower stems for home, office, hotels, restaurants are on the rise, especially cut Dendrobiums, Vandaceous and the Oncidium sprays.

Sales to hobbyist orchidists fluctuate. There are less and less large-scale operations catering to strictly the hobbyist market. There are many specialty greenhouses, which are extremely popular yet, selling only outdoor growing plants, or perhaps just Pleurothallis, terrestrial orchids, or Paphiopedilums, Phalaenopsis, and species only. They, however, only compose a very small percentage of the orchid market. It is getting more and more difficult for maintaining a profitable situation for a company keeping a diverse selection to sell to hobbyists.



カナダにおける蘭の生産と消費

Orchid Production and Consumption in Canada

ディーン・ムリク氏 カナダ蘭会議委員

Mr. Dean Mulyk

Canadian Orchid Congress, member

Vancouver Orchid Society, member and former board member

この15年の間にカナダの蘭市場は目覚ましい変化をみせています。蘭は鉢植え市場に出回り始めており、特にここ8年、市場に多くの蘭が出てきています。

15年前、一般のカナダ人に質問をしますと、蘭という植物の名前は知っていましたが、神秘的な雰囲気のあるすてきな花、貴重な花だと思われていたようです。カナダ人は原産のシプリペディウムに対しては認識もあり、神秘的な感情をもっていました。私も幼い時から「蘭は摘んではいけない、そのままにしておきなさい。」という風に教えられたものでした。

ここ10年間ほど、蘭はマスコミを通じてどんどん見られるようになっていきます。人々は蘭を見るようになり、どういう物が分かってきた訳です。園芸雑誌の中には蘭に関する記事が載っていて、栽培の仕方、手入れの仕方などの情報が得られるようになりました。またいくつかのテレビの園芸番組でも蘭が取り上げられていますので、カナダの一般の人々の蘭に対しての知識が増えているのです。ファレノプシス等、蘭の種類によっては短期間の内に鉢植え市場に出回り始めました。

1985年以前カナダにおける蘭商売というのは、ほとんど愛好家の商売でした。いくつか植物を集めまして、株分けの数が多くなりすぎたので、次の蘭を買うために売っていたということです。カナダでは大きな温室で蘭だけを栽培しているというようなところはありませんでした。温室の一部で栽培されていた事はありませんでしたが、蘭が主ではなかったのです。また蘭が園芸店やガーデンショップへ卸売りされ、そこで小売りされるということもあまり例がなかったわけです。

しかし、ここ15年ほどでこの状況は変わってきました。大きなDIYのお店、食料雑貨店、ガーデンショップ、花屋などでも手に入ります。蘭はどこでも買えるような花になってきているわけです。

販売されている多くのものがタイ、オランダなどから幼植物として輸入され、初花を咲かせるまで育てた後に、卸売り市場に出され、小売りで売られます。今では、蘭の生産だけを扱っているビジネスも増えており、温室事業もあります。特に、ファレノプシス、オドントグロッサム、ジゴベタラム、パフィオペディラム、そしていくつかのシンビジウムの種類を扱っているところがあります。

しかし、蘭がカナダの鉢植え市場に出るようになったのはごく最近であることから、カナダ政府でもまだ統計が取れていません。3、4年後には統計を取り始めてくれるのではないかと思います。

今、カナダで起こっている大きなことは、ファレノプシスがポインセチアのようになっている事です。買って楽しんだ後、花が落ちたら捨ててしまうというようなことになってきています。他の蘭も同じようなことになりつつあるのです。そこで我々は、この蘭が持つ神秘的な雰囲気を、特別な花であるということを手放してしまっているのだろうかという、非常に興味深い疑問が生まれてくるのです。ごく普通の花になってしまったら、タマシダ、ベンジャミン、シェフレラ等、簡単に買って売れるような、あまり深い意味のない花になってしまうのが懸念されるのです。

In the last 15 years, there has been a rather dramatic change in the Canadian orchid market, essentially, what we have in Canada is that orchids are now starting to enter the commercial potted plant market. but in particular in the last 8 years, we have noticed more of the plants coming in.

15 years ago, if you asked the average Canadian, they would tell you they knew what an orchid was by name. They had a mystique, they were a wonderful plant, and they were something dear. Canadians had an appreciation for their own native *Cypripedium* orchids, and again this was part of the mystique, I was taught as a young child, "Do not pick the orchids, keep them where they are."

What has happened is that in the last 10 years, more and more orchids are being seen in the media. There is an increased media presence. People are starting to see the orchids, they are getting an idea, gardening magazines will have short articles on orchids, how to care for them, how to cultivate them, also there are a number of gardening television shows where orchids are featured, so the Canadian public is becoming educated about orchids. And in fact, certain orchids, such as the *Phalaenopsis* really have entered the commercial potted plant market by storm.

Previous to 1985, most of the orchid businesses in Canada were essentially hobbyist businesses. Someone who had collected a number of plants, had far too many divisions, and was essentially selling them in order to buy their next orchid plant. In Canada, there were no actual large greenhouse operations solely devoted to the production of orchids. There were some greenhouses, which had a part of their total inventory as orchids but it certainly was not the major feature. Essentially, there was no real wholesaling of orchids to nurseries, or to garden shops, to then be sold as

retail plants.

This has actually changed in the last 15 years. This is in part due to the fact that orchids are now readily available at a wider number of stores, there are large home depots, garden shops, hardware stores, grocery stores, floral shops, essentially orchids are becoming ubiquitous. - You can buy them anywhere.

The actual production of orchids in Canada is relatively small. Most of the plants that you are sold essentially come in as young plants from Thailand, Holland, they are grown on until they are first blooming, and then sold into the wholesale market, to then be sold retail. There are a larger number of Canadian businesses, and certainly a number of greenhouse operations that are devoted almost exclusively to orchid production in Canada. In particular *Phalaenopsis*, *Odontoglossum* Alliance, *Zygopetalum* Alliance, *Paphiopedilum* and some *Cymbidiums*.

However, since orchids are such a recent introduction into Canada, into the commercial potted plant market, the Canadian government has not kept statistics yet. It is hoped probably in the next 3 to 4 years, that maybe the Canadian government will start to do this.

One of the major things that is happening in Canada, is that the *Phalaenopsis* is now becoming the equivalent of a poinsettia. You buy it, you enjoy it, after it finishes blooming, you throw it out, and other orchids are slowly starting to achieve this status also. This does bring up the very interesting question, that is, do we really want orchids to lose their mystique, the fact that they are very special plants and otherwise, if they do become commonplace, they become the equivalent of Boston ferns, *Ficus* plants and umbrella trees,- something that is readily bought and sold and has no real meaning any more.



日本における蘭の生産と消費

Orchid Production and Consumption in Japan

高橋靖昌 氏 日本洋蘭農業協同組合副組合長

Mr. Yasumasa Takahashi

Vice President, Japan Orchid Growers Association

日本の洋蘭はファレノプシス、シンビジウム、デンドロビウムの三種類が市場へ出回っている主力商品です。そのうちの一つ、ファレノプシスは現在日本ではフラスコから始めて栽培している人というのはおよそ10～15%程度しかいません。残りはフラスコ作りをタイに依頼して、そのフラスコをタイから台湾に送り、台湾でブルーミングサイズまで栽培するのです。それから日本に入れて3～4ヶ月後には市場に出荷するというような傾向が非常に強いと思います。以上のことは日本では賃金が高いことが理由に挙げられますが、この2、3年前からファレノプシスやシンビジウム等の市場価格が非常に安くなり経営は苦しい状況です。

日本では今、ファレノプシスが主力になっており、現在は終年出荷といってどこの蘭園でも冷房装置を用いて一年中出荷できるような体制を整えております。しかし、逆に冷房装置を用いずに自然状態で栽培、開花させた事により収益を上げた人もいます。また、シンビジウムは昨年のように、夏は暑く冬が急激に寒くなると、本来は11、12月に花を咲かせるものが1月以降に花が咲いてしまうため、価格は1/4～1/5に下がってしまいます。こういう状態が続くと日本の洋蘭産業の将来は暗くなってしまう。

そういう理由もあり、これからは効率的に栽培をしていく必要があります。私は9年程前にファレノプシスを海拔700mから1000mぐらいのところで栽培し始めました。なぜそういう場所で栽培するかというと、冷房装置にかかる電気代を無くして栽培コス

トを下げようと考えたのです。実際に平地ではファレノプシスの栽培にはクーラーを用いて7～8月に開花させるようにコントロールしていましたが、高地で栽培すると、一年中咲かせることができるのです。これまで私の行動を疑問視していた人々も今では山梨県、長野県という高地で栽培しており、現在ではファレノプシス以外にもシンビジウムやカトレアまで栽培されるようになってきました。カトレアも高地で栽培すると集中して出荷していたものが一年間平均して出荷できるようになっています。

私たち洋蘭業者は、市場に出荷しても採算にならないものはどんどん淘汰しており、本当のところファレノプシスもぎりぎりの採算でやっています。日本人は意外に熱しやすく冷めやすいという傾向が強く、蘭の売上は年々落ちこんでいるため、今は新しい良い種類を何か見つけなくてはいけないという時代に入ってきています。また、それを立て直すのが洋蘭組合の使命だともっています。

今、日本で流行っている栽培方法にリレー栽培というのがあります。フラスコ苗からブルーミングサイズに至る各段階を別々の蘭業者が分担するのです。リレー栽培の先駆者である栃木県の蘭業者は年間の売上が約3億円ということですから、今後は皆さんの組合でも取り入れていけば利益が上がるのではないかと思います。沖縄の洋蘭産業も大きい組合があると思いますが、品種改良や海外からの苗の導入等、皆で研究しあい、品質の良い蘭を東京や大阪の市場に出していく方法がとれれば幸いに思います。

At the moment, Cymbidiums, Dendrobiums and Phalaenopsis are the three main varieties of orchid that are seen on the Japanese market. In Japan, there are currently only about 10 to 15 percent of people who raise Phalaenopsis, one of the varieties just mentioned, from flasks. As for the rest, they rely on Thailand to make the flasks and then send these flasks from Thailand to Taiwan. They are then grown there until they are blooming size plants. I think there is a strong tendency to then bring them into Japan, and sell them in the market around 3 to 4 months later. This is happening because the wages in Japan are so high. From about 2 or 3 years ago, the market prices for orchids such as Phalaenopsis and Cymbidium have become very low, and the managing of businesses is becoming very difficult.

Phalaenopsis is now the main orchid in Japan. There is a system that has been set up, where Phalaenopsis can be harvested from any orchid ranch throughout the whole year, by using air conditioning. However, there seem to be people, who have sold their plants at high prices, through, in fact, growing them in a natural environment, without using air conditioning. Also, when, as was the case last year, the summer is hot, and the winter is suddenly very cold, Cymbidiums that should bloom in November or December begin blooming after January, and therefore their prices decrease to a quarter or a fifth of what they would have been if they had bloomed earlier. If this kind of situation continues, the future of the Japanese orchid industry is indeed dark.

We therefore need to carry out efficient cultivation. 9 years ago, I began growing Phalaenopsis at 700 to 1000 meters above sea level. I grow the plants at such places, because I thought that I could cut down on the cost of

cultivation, as I would no longer have to pay electricity bills for an air conditioning system. Although on flat land I had been controlling the blooming of Phalaenopsis for July and August using air conditioning systems, when I grow them on the highlands, they bloom throughout the year. Even the people who had been questioning my actions now cultivate their plants in the highland areas of Yamanashi Prefecture and Nagano Prefecture, and nowadays, as well as Phalaenopsis, Cymbidiums and Cattleyas are also grown. When Cattleyas are grown in high areas, you do not have to have a concentrated harvest, as you can sell them on the market all year round.

We professionals select out the plants which are not profitable, and actually we are only just about making a profit with Phalaenopsis. There is a strong tendency for the Japanese to quickly become engrossed in something, but to also quickly cool down and become uninterested. Sales have been decreasing year after year and we are now entering a time, where we need to find new varieties of plants. I feel that it is up to the Orchid Growers Association to improve the situation.

There is a method of cultivation that is popular in Japan right now, called "relay cultivation". Different orchid growers share the steps of growing the plants from flasks to blooming size. An orchid grower in Tochigi Prefecture, who is the pioneer of relay cultivation, has annual sales of approximately 300 million yen, so I think that if your Orchid Growers Association adopts this method, your profits will increase largely. I think that there is a large Growers Association here, in the Okinawan orchid industry, and that it would be good to research together into breeding and bringing in seedlings from overseas and to then bring in good quality seedlings to sell in the Tokyo and Osaka markets.

SNAPS
国際洋蘭シンポジウム
 (International Orchid Symposium)



開会あいさつ



蘭ディスプレイ展示会場風景





ディスプレイ設営風景



蘭ディスプレイ



台湾／台湾洋蘭推廣協會



マレーシア／マレーシア蘭協会



スリランカ／ペラデニア植物園



カナダ／バンクーバー蘭協会



フィリピン／フィリピン蘭協会



タイ／タイ国蘭協会



ドイツ／ドイツ蘭協会



シンガポール／シンガポール蘭協会



イギリス／イギリス蘭協会



アメリカ／アメリカ蘭協会



インドネシア／インドネシア蘭協会

記念品と受賞皿について

受賞皿



壺屋焼

起源は、15世紀まで遡りますが、産地形成がなされたのは17世紀頃です。その技術は諸外国との交流の中で高められ、多様な形や彩色の技法を習得し独自の技法を確立したのです。現在でも沖縄の家庭において使用されているほか、日本はもちろんアメリカなどにも輸出されています。



又吉常敏 (吉 陶房 主宰)

author : Tsunetoshi Matayoshi

- 昭和32年11月 沖縄県中頭郡北中城字島袋に生まれる。
- 昭和51年3月 沖縄県立中部工業高校電子科卒業。
- 昭和58年～ 壺屋焼陶工 上江洲茂生に師事する。
- 平成6年10月 壺屋焼窯元「茂生窯」において掻き落とし、指掻き、線彫、飛びかんな、盛りつけ等の壺屋焼（通産大臣指定伝統的工芸品）の技法を習得する。
この間、沖縄・陶器の部において4回の入選を果たす。
- 平成6年11月 独立。読谷村字上地に築窯、「吉陶房」と命名し、作陶を開始する。
- 平成8年9月 現代沖縄陶芸展・課題作品の部において奨励賞受賞。
- 平成9年11月 沖縄県工芸公募展において佳作及び入選。
- 平成10年2月 沖縄国際洋博覧会における大賞、優秀賞、優良賞の受賞記念となる「掻き落とし胡蝶欄文皿」を作陶。

記念品



琉球びんがた

びんがたは、古くは琉球王朝時代に婦人の礼装、神事の服装などとして摺り込みの手法で染められたことがその起源であるといわれています。その後14～15世紀に東南アジア各国との交流の中で染色の技術を学びとり、現代までその技法が伝えられたものです。

図柄は、絵画のように立体的な図案の構成の中に四季の風物を融合させたものです。びんがたは、沖縄の長い歴史と風土にはぐくまれた世界に誇る染物です。



知念績元 (知念びんがた工房 代表者)

author : Sekigen Chinen

- 1942年 那覇市に生まれる。
小さい頃より家業の琉球びんがたを手伝い15歳で型彫り、色差しを許される。
- 1980年 県産業まつりにて最優秀賞受賞。
- 1990年 ハワイ移民90周年記念事業の一環としてハワイで実演と指導を行う。
- " 年 県産業まつりにて最優秀賞受賞。
- 1991年 伝統工芸品産業振興会より琉球びんがた（総合）伝統工芸士として認定。
- " 年 那覇市制施行70周年記念特別表彰。
琉球びんがたの製作、指導で活躍すると同時に琉球びんがた事業共同組合の副理事長も努める。
- 1992年 安谷屋正量賞受賞。
- 1997年 沖縄県指定無形文化財技能保持者（琉球びんがた）として認定。

PARTICIPATION

出展者紹介

鉢物・切花・外国出展審査

【埼玉県】

佐藤春雄

【東京都】

(株)大場蘭園
三好勝彦
(株)東京オーキッド・ナーセリー
赤井三夫
山崎安勝
黒澤敏行

【神奈川県】

石川晴夫
大津豊隆
内田正比古
久保田志津枝
市川勝子
高橋真澄
落合功
石井博
重田裕充
浅井演
稲嶺盛昭
石井春枝
重田悦子
永井清
村上旭
(株)相模洋蘭園

【長野県】

池田俊作
佐藤博康

【愛知県】

岡田浩和
フラワードーム2000
(財)名古屋市公園緑地協会
ランの館

【滋賀県】

久保田貞雄
久保田慶子

【京都府】

澤井公和
吉岡重子
岡村満則
繁田こと美

【大阪府】

松尾寛治

【兵庫県】

村田孝男
山本嘉子
横島文子
篠原克文
守本日吉
北瀬哲子
牧田夏雄
原田英美
守本佳子
瀧口邦雄
足立一重
白石弘子
澤田浩輔
竹中石一
桜井幸広

【和歌山県】

(株)味泉
山下誠一郎
木下健
水田隆真
森脇清文
瀬戸内海洋蘭園

【岡山県】

塩飽洋太郎
倉橋定男
藤広治

【広島県】

木村琢壮
広島市植物公園
川上千寿子
福井中庸
柳本昇

【山口県】

井上圭子
今井トヨ子
松村さよみ
福谷郁子
桜谷孝子
藤井妙子
山本利満
小林英美
高橋茂美
斎藤孝子

【香川県】

三好加代
藤本友弥
高橋國正

【愛媛県】

松井博

【福岡県】

平野和子
政住光
斎藤雅徳
犬飼基
野中福次
戸島智
藤英俊
伊藤清水
小田豊明
西村義満
高橋淳
本田裕之

【大分県】

渡辺英征
安長蘭園
安長茂子
永浴安彦
後藤真弓
前田巳喜雄
峰卓郎
工藤和子
山村久
草野主博
峰ハマ子
永浴トヨ子
田辺豊茂

【鹿児島県】

桜井久雄

【沖縄県】

宮里徳正
宮里春美
安田徳昭
兼島芳数
宮城裕明
仲真米子
瑞慶覧朝一
具志堅敏子
富本裕英
兼島彩香
宮城トミ子
崎浜清子
瑞慶覧みどり
瑞慶覧聖子
当山スミ子
村吉誠徳
仲里マサ子

棚原由美子
村吉安子
棚原良行
仲里幸助
嶺井行吉
新里邦子
嶺井テツ子
兼城賢一
長嶺由守
名嘉真勉
上運天清
徳田米蔵
栄野比博
奥間政正
比屋根正
古謝望
比屋根優希
名嘉真文
名嘉真宜英
名嘉真宜孝
奥間ヒナ子
栄野比常子
祝嶺秀治
山城一也
山城喜光
仲宗根秀祐
仲里園芸
(有)オーキッドガーデン山城
新垣洋蘭園
新垣園子
山城和子
仲宗根洋らん
仲宗根政子
我謝英次
新里昌重
平地正三
宮良祐次
宮良祐正
栗盛邦彦
川満久子
宮良博文
宮良都子
ピオスの丘

(有)らんの里沖縄

宮城浩三
城間恵子
瑞慶覧優
城間栄徳
宮城美智子
城間正守
城間盛勝
永吉トモ子
K・オーキッド

町田繁
町田文子
岳原直正
照屋清健
山内力
渡嘉敷通見
照屋利美子
照屋直樹
岳原春子
松永裕子
徳本行雄
石川順正
小緑茂雄
大城栄治
川平昌彦
上地幸三郎
饒平名知育
島袋正弘
饒平名かおり
上地淳志
大堂好子
大宜味洋文
大城幸一
新垣雄文
稲嶺盛久
新垣ナナエ
新垣善一郎
安里弘
伊佐信栄

比嘉盛幸
伊佐英仁
喜納宗一
喜納昌久
喜納政輝
森松長孝
仲宗根秀光
玉城昌伸
前原信雄
大見恒篤
仲宗根正昇
親川ひろみ
安村弘光
玉城詠光
平安山良勝
宮城幸栄
山川宗賢
内原英吉
山本良文
安里良弘
安里恵子

【アメリカ】

Norito Hasegawa

【インドネシア】

Sutikno Linuhung

【タイ】

S. ORCHIDS SERVICE
CO.,LTD.
Chom Boonyam
Sittsak Samboonphon
BANGKOK FLOWERS
CENTRE CO.,LTD.
Surasak Deesawad
Prakong Pimsamarn
Janya Nakazawa
Suwanna
Techachareonsukchila
Suwannee
Techachareonsukchila
Preecha
Techachareonsukchila
Kamolthip
Techachareonsukchila
Pairote
Techachareonsukchila
Jutharat
Techachareonsukchila
Pairat
Techachareonsukchila
Kazuko Ijiri
VIBOON ORCHIDS

【ドイツ】

Lutz Rollke
Gerd Rollke

【マレーシア】

GREEN TEACH TOKYO
CO.,LTD.
Cheah Wah Sang
Rajah Sreenivasan

【台湾】

Champion Orchids
Ching Hua Orchids
Tien-Huang Chin
S.S.CHEN
王 錦文
オーチス農業開発公司

ディスプレイ審査

(株) 沖縄緑花開発センター
(株) 沖縄緑建
(株) 電発環境緑化センター
沖縄営業所
(株) 桃原農園
(資) 美樹園
(有) らんの里 沖縄
(有) 久田緑化造園

(有) 紫光園
(有) 樹苑
(有) 赤嶺総合造園
(有) 前原造園土木
(有) 庭樹園
(有) 東緑化開発
NAN・EN BIO
沖縄園芸(株)

沖縄県立中部農林高等学校
園芸科
沖縄県立南部農林高等学校
園芸デザイン科
沖縄県立北部農林高等学校
園芸工学科
沖縄全日空リゾート(株)
万座ビーチホテル

沖縄熱帯植物管理(株)
北部造園土木(株)
本部造園(株)
蘭フラワー

フラワーデザイン審査

本部みさ子
内間江利子
嘉陽ひとみ
西原嶺子
新垣美和
嘉陽緑
平良千鶴子
飯室宏治
池原昌彦
翁長幸子
島袋幸枝
宮城太志
洲鎌広明
金城麻由美
宮城千明
喜友名寿嘉子
仲西乙子
比嘉春恵
積茂樹
佐喜真ゆかり

阿波根昌一
真栄平りか
高江洲均
高江洲良枝
宮城エミ
山田千恵子
新垣和子
大城利重子
平田美智子
玉城涼子
仲村和子
金城真理子
屋良朝子
村吉しのぶ
池原由紀子
松田まり子
當山和美
國吉真理
呉屋静香
末吉業平

辰巳綾子
手登根正
山里勝子
上間睦子
与那嶺厚
金城新治
玉城美雪
瑞慶山秀雄
与那覇安子
比嘉健
城間利恵
城間俊彰
比嘉秀夫
島袋律子
林綾乃
新垣弘美
山田千夏
国沢綾子
石川初子
飯室輝美子

末吉恵子
(株) 平成造園
知念美智子
富原由花
知念しずか
沖縄県立南部農林高等学校
大田きみえ
垣花寿子
中通秀子
和田マリ子
金城スミ子
山城孝子
阿波根秀子
伊藤由里

熱帯ドリームセンターのご紹介

3つのラン温室、果樹温室、ビクトリア温室など、世界に誇る大温室群には、1年中を通じて熱帯・亜熱帯の花々が咲き乱れ、果樹が実をつけています。また、中庭には池や流れをつくり、熱帯を東南アジア・中南米・アフリカの3地域に分け、それぞれの地域の特徴を表わす珍しい植物を植えました。施設のランドマークである高さ36メートルの遠見台からは、遠く伊豆島が浮かぶエメラルドグリーンの海を背景に熱帯ドリームセンターの全景が眺望できます。

観覧のご案内

Visitor's Guide

熱帯ドリームセンターは、テーマごとに14のゾーンにわかれています。センター内には、ゾーンを番号で示したサインを各所に設けておりますので地図とあわせてご観覧ください。

Tropical Dream Center is divided into 14 areas, each with its own theme. There are signs throughout the center that show the numbers for each area. Please refer to these numbers and the pamphlet to locate the area you are interested in.

14 東南アジアゾーン Southeast Asia Zone

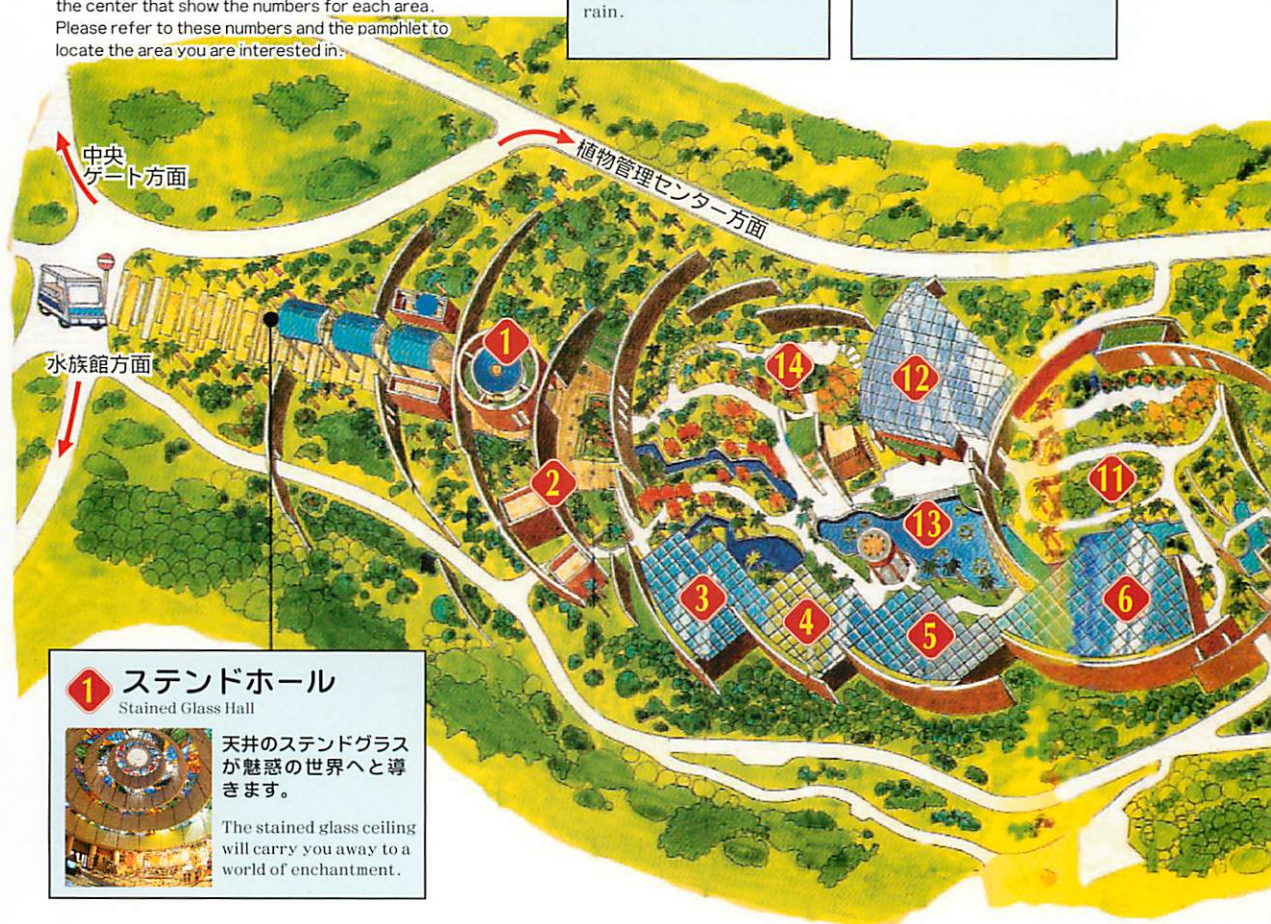
ゴールデンシャワーなど美しい花々を集めました。

There are many beautiful flowers here, including golden rain.

13 ロータスポンド Lotus Pond

スイレン池でちょっと休憩を...

Take a refreshing break at the Water Lily Pond.



1 ステンドホール Stained Glass Hall



天井のステンドグラスが魅惑の世界へと導きます。

The stained glass ceiling will carry you away to a world of enchantment.

2 クロトンパティオ Croton Patio



中世の貴族的な雰囲気を感じた中庭です。

This courtyard is designed to project an air of nobility from the Middle Ages.

3 ファレノプシス温室 Phalaenopsis Greenhouse

蝶のような大きなファレノプシスをご覧ください。

Here you can see the large phalaenopsis, which resembles a butterfly.

4 バンダ温室 Vanda Greenhouse

樹木に付着して生育するバンダ属のランを一堂に。

Vanda orchids grow on tree trunks throughout this greenhouse.

5 カトリア温室 Cattleya Greenhouse

美しく咲き誇るカトリアをご堪能ください。

Take time to appreciate the lovely blossoms of the cattleya.

Tropical Dream Center Information

Flowers are in full bloom and fruit trees are bearing fruit throughout the year at these greenhouses, which are among the world's finest. A pond and stream have been built in the courtyard, which has been divided into three tropical sections—one each for Southeast Asia, Central and South America, and Africa. Rare plants that typify the region have been planted in each section. The facility is 36 meters high, marking it a local landmark. From its observation deck, visitors have a sweeping view of the entire Tropical Dream Center, with the island floating in the distance in emerald sea.

12 ビクトリア温室 Victorian Greenhouse

水生・湿地植物が鑑賞できるスポットです。

At this spot, Visitors can enjoy aquatic and wetland foliage.

11 中南米ゾーン Central & South America Zone

色とりどりの花壇と大きな徳利状の幹が特徴的なトックリキワタをぜひごらん下さい。

You can't miss seeing the colorful flowerbeds and the white floss-silk tree, with a Japanese sake flask.

10 ビデオホール・遠見台 Video Hall, Observatory

遠見台からの美しい景色を眺めたあとは、2階でヤンバルの植物や昆虫に出会ってみませんか。

After viewing the splendid scenery from this observation platform, come down to the second floor to discover the myriad plants and insects of Yambaru.



9 展示室 Exhibition Room



ランや熱帯の植物の不思議な話を映像で楽しめる他、植物をテーマにした企画展が随時楽しめます。

See films with amazing depictions of orchids and other tropical plants. There are also other exhibits that center around flowers.

8 ラン展示室 Orchid exhibition room



心地よい空間で優良品質のランをご鑑賞ください。

Observe the highest-quality orchids in this comfortable space.

6 果樹温室 Orchard Greenhouse

パラミツ、ドリアンなど珍しい果樹を間近に。

See such rare fruits as the jack fruit and durian up close.

7 回廊・アフリカゾーン Gallery · African Area



涼風が吹きぬける回廊はサバンナのイメージです。

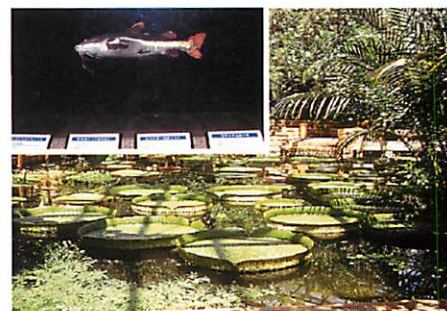
The cool breeze in the colonnade brings visitors the feeling of the savanna.



■ラン温室



■果樹温室



■ビクトリア温室

INTRODUCTION OF SPONSORS

協賛団体紹介

協賛協力

(順不同)

● 協 賛

ANA 全日空
日本航空(株)
CHINA AIRLINES 沖縄支店
日本蘭協会
全日本蘭協会
日本洋蘭農業協同組合
蘭友会
沖縄県蘭協会
沖縄県経済農業協同組合連合会
沖縄県花卉園芸農業協同組合
(社)沖縄県造園建設業協会
(社)日本フラワーデザイナー協会
(社)日本生花通信配達協会
(社)ランドスケープコンサルタンツ協会
(社)日本造園建設業協会
沖縄県緑化種苗協同組合
(有)らんの里 沖縄
東京オーキッドナーセリー
国際園芸(株)
北部らん友会

● 協賛金

沖縄電力(株)
琉球セメント(株)
グローバル企画印刷(株)
オリオンビール(株)
(株)沖縄銀行
(株)琉球銀行
(株)沖縄環境開発センター

沖縄熱帯植物管理(株)
(有)沖縄エーブイサービス
(有)読波建設工業
沖縄コカ・コーラボトリング(株)
沖縄明治乳業(株)
沖縄園芸(株)
(資)美樹園
北部造園土木(株)
本部造園株式会社
(有)前原造園土木
沖縄富士フィルム販売株式会社
(株)りゅうせき
(株)沖縄海邦銀行
大栄空輸(株)
県緑化推進委員会
(社)沖縄建設弘済会
本部グリーンパークホテル
ダイヤトピー農芸(株)
ナカヌ興業(株)
リーズン
(株)アラカキ建設
(株)サン緑化
(株)阿波根組
(株)沖縄日立
(株)沖縄緑花開発センター
(株)沖縄緑建
(株)屋部土建
(株)渡嘉敷組
(株)桃原農園
(株)南西造園土木
(株)平成造園
(株)琉商造園土木
金秀グリーン開発(株)
金秀建設(株)
(資)沖縄総合造園
(資)沖縄庭芸
(資)山仁組
(資)本部清掃
全勝組
南西電設(株)
(有)おおとみ造園土木
(有)嘉手納造園土木
(有)丸喜庭園
(有)久田緑化造園
(有)宮里農園
(有)紫光園
(有)樹苑
(有)西原農園
(有)赤嶺総合造園
(有)大球造園土木
(有)仲本造園土木
(有)仲嶺造園土木
(有)庭樹園
(有)東緑化開発
(有)巴恵造園土木
(有)蓬来造園
(有)北部園芸
琉宮城蝶々園
(有)本部自動車
(有)本部石油商会
琉球産経(株)
沖縄全日空リゾート(株)

沖縄国際洋蘭博覧会 2000

■ 出展者数・出展ラン及び展示総数 ■

	鉢物審査の部		切花審査の部		外国出展審査の部				ディスプレイ審査の部		フラワーデザイン審査の部				プレサミットディスプレイ			総 合 計		
	出展者数 (人)		出展数 (株)		出展者数 (人)		出展数 (株)		出展者数 (人)		出展数 (株)		出展者数 (人)		出展数 (株)		出展者数 (人)		出展数 (株)	
	出展者数 (人)	出展数 (株)	出展者数 (人)	出展数 (株)	出展者数 (人)	出展数 (株)	出展者数 (人)	出展数 (株)	出展者数 (人)	出展数 (株)	出展者数 (人)	出展数 (株)	出展者数 (人)	出展数 (株)	出展者数 (人)	出展数 (株)	出展者数 (人)	出展数 (株)	出展者数 (人)	出展数 (株)
外国 (10カ国 1地域)	—	—	—	—	22	1,007	8	960	—	—	—	—	—	—	—	—	13	330	1,100	43
県外 (16都府県)	89	311	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	89	311
県内 (25市町村)	94	491	22	320	—	—	—	—	23	2,185	506	17	767	36	956	32	474	—	224	2,676
合 計	183	802	22	320	22	1,007	8	960	23	2,185	506	17	767	36	956	32	474	13	330	1,110
公園展示 ラン合計																				2,400
展示総数																				6,724
																				5,083
																				11,807



いい空を。いい時間を。

もっとくつろげる空へ。もっと楽しめる空へ。

あなたの空を笑顔で満たしたいから。

日本で、そして世界中で。

あなたに、いい空を、いい時間をお届けしたい。

私たちひとりひとり、心を込めて、お迎えいたします。



国内線のお問い合わせは、フリーダイヤル ☎0120-029-222
国際線のお問い合わせは、フリーダイヤル ☎0120-029-333
または、お近くの全日空代理店まで。
全日空ホームページ「ANA'S www」 <http://www.ana.co.jp/>



地域とともに、地域のために

沖縄電力

沖縄県浦添市牧港五丁目2番1号 〒901-2602
TEL 098-877-2341(代表)

郷土の資源で



郷土をつくる

琉球セメント株式会社

ふれあい、いきいき。

Orion

MEIJI

県民の健康と生活文化の創造に貢献する

沖縄明治乳業株式会社

〒901-2502 浦添市牧港1-65-1 TEL098-877-5274



沖縄 コカ・コーラ ボトリング 株式会社
OKINAWA COCA-COLA BOTTLING CO.,LTD. (コカ・コーラ指定会社)



沖縄国際洋蘭博覧会実行委員会
〒905-0206 沖縄県本部町字石川424番地